

終連報丙第三二六號

發 終連五部

擔任 事務官

昭和二十一年九月十九日
總務課

情 報

普 通

引揚關係 G、H、Q 連絡報告

九月十七日

一 九州より奄美大島に送還すべき沖繩縣人は八月一日現在で約一萬九千名以上あり内六〇〇〇名以上が鹿兒島に滞留し送還を鶴首待機し居る處其大部分は身廻品を賣食し困窮状況にあり現地當局の憐みの種となり居り今般現地より陳情者も上京せるにつきては現在の奄美行訖船週六〇〇名を一二〇〇名に増配方配慮致度き旨「ハウエル」大佐に申し入れた處總司令部に於ては右情報等に基き目下送還希望沖繩縣人の實數再調査を命じた次第で右結果判明次第送還計畫を再調整する筈である。併し増船を特に急ぐに於ては右陳情を正式書面

に於て是出ありたい。

考慮すべしと回答があつた。

三鹿兒島より石垣行船第三船は大体九月二十日出帆豫定にて右計畫を變更することはい出來ない。

但し十月以後更に配船の機會あるにつき戸畑等の殘留者はそれ迄待たれたいとのことである。

三、ハワイ向一七一九名の日本兵積込船は▽○○九に決定、同船は横濱を九月二十五日出帆の筈である。

引揚者用被服、食糧等の積込指令は追而出る筈なるも豫め手配願度い。

尚マニラ行葛城は九月二十四日吳出帆の筈である。

又沖繩一名古壁シヤトルはL S T二隻を使用、各船九○○名を積込引揚ぐる筈。取初の二船は九月二十六日名古屋出帆、一船は往航空路で他の一船は往航に送還人を乗せて行く筈とのことである。